

文部科学大臣杯・国土交通大臣杯

国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会 2019 実施報告書

実行委員長 塩野崎 英二

(一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟常務理事)

はじめに

国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会は、全国の連盟登録ジュニアヨットクラブと海外チームのジュニアセーラー達が一堂に会して、日頃鍛えた帆走技術とシーマンシップを競い合いその向上を図るとともに、海外チームとの交流により国内ジュニアセーラー達が国際感覚を磨き、その視野をひろげ、また地元地域の子供たちとの触れ合いを通して健全な水辺スポーツとしてのヨットを啓蒙、普及させて、生涯スポーツとしてのヨットの発展に貢献することを期して当連盟が主催して毎年実施しています。

本競技会は文部科学大臣杯、国土交通大臣杯が授与される国内唯一の大臣杯タイトルレースです。また、一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟（以下 JJYU）の名称、設立趣旨にもありますようにクラブとして参加頂いて、クラブ対抗レースの上位クラブには連盟の主催する海外セーリング研修参加資格を授与するという会長特別賞を設けており、ジュニアヨットの普及とクラブ同士の親睦、そして国際交流を目的に開催する競技会です。

本年は海外から招待のオーストラリア、ニュージーランド、韓国、台湾（初参加）の 4 チームと国内は東京から南は沖縄石垣島までの 11 クラブを迎えて、東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所にて開催しました。

8 月 2 日の開会式、国際交流会は上記海外 4 チーム、国内 11 チームの 84 名の選手に、60 名を超えるコーチ、応援の保護者を迎えて、運営役員も 80 名余の総勢 220 名に近い規模となりました。



参加選手の皆さん（国際交流会にて）



東京都若洲ヨット訓練所

練習会

開会式に先がけて行われた練習会には翌日にレース参加する殆どの選手が練習を兼ねて練習会に参加しました。

練習会では運営役員も A・B 海面それぞれで運営体制の確認を行い、本レースに備えました。

開会式

開会式はハーバーではなく、立派なホテルマリナーズコート東京の 2F 宴会場「平安の間」ということで選手、指導者、大会役員も少し緊張気味の中、少し予定より遅れて始まりました。

開会式は競技会委員長の JJYU 伊藤雅宣専務理事の競技会開会宣言、競技会副会長の JJYU 安井清副会長の挨拶と続きました。

ご来賓として、業務多忙なところ江東区長山崎孝明様にお越し頂き心からの歓迎のお言葉を頂戴致しました。後援団体からのご来賓として江東区地域振興部スポーツ振興課長の市村克典様、東京都ヨット連盟会長代行の鈴木修様をご紹介させて頂きました。

続いて少年ヨット憲章「山中湖宣言」を安井清副会長立会いの下、江東区立小中学校セーリング部の 3 名（小山すみれさん、上條久美子さん、池田ももかさん）、選手宣誓を江東区立小中学校セーリング部の 2 名（北浦州陽^{すばる}くん、松岡拓飛^{たくと}くん）とユースチーム東京の三浦航太^{こうた}くんたちが力強い言葉で表現してくれました。

開会式終了後に恒例の安全講習会を丸山理事・医療救護部長と川副陽子委員・医療救護委員が熱中症を中心に、プロジェクターと英文説明文書で説明し、続いて競技運営説明会を A 海面、B 海面に分かれて、レース委員会委員により行いました。



伊藤雅宣競技会委員長の競技会開会宣言



安井清競技会副会長ご挨拶



ご来賓の皆さま



山崎江東区長ご挨拶



山中湖宣言



選手宣誓



安全講習会



競技運営説明会（A海面）



競技運営説明会（B海面）

国際交流会

国際交流会は開会式会場を安全講習会等開催の間に模様替えして、クラブ、各国チームをアットランダムにテーブル分けして、交流しながら、食事を楽しみ、海外チームとの記念品交換、各クラブの紹介などなごやかに繰り広げられました。例年催していたアトラクションはありませんでしたが、野村泰造式典委員長自らがじゃんけん大会を演出し、いろいろな景品を順に配布しました。最後はスターモア化粧品株式会社提供の小型自転車が当たりました。



鈴木東京都ヨット連盟会長代行による乾杯



保護者の方々



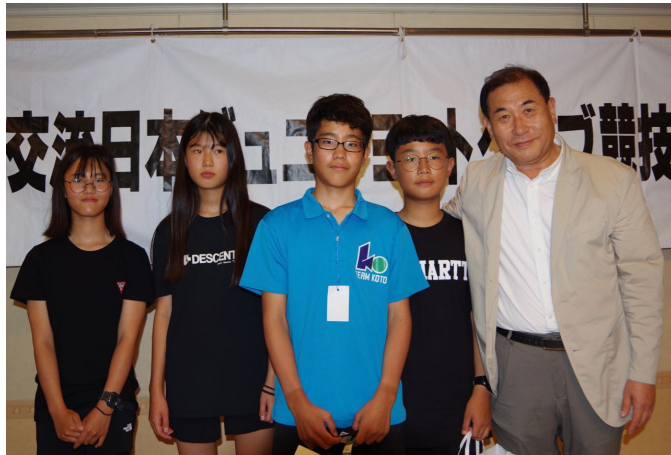
プレゼント交換



オーストラリアチーム



ニュージーランドチーム



韓国チーム



台湾チーム



じゃんけん大会



じゃんけん大会自転車をかけた決勝戦

A 海面のレース状況

競技会は2日間を通し猛暑となりましたが、暑い夏での若洲特有の200°前後の安定した風軸で、4.5knot～15knotと幅広い風域、それに合わせた0m～1.5mの波高の中、日頃の練習の成果を発揮できるシチュエーションでした。また、全クラスとも予定の7レースを実施することができ、体力づくり、体調管理がしっかりできていたと感じました。

【8月3日（土）競技会初日】

選手ブリーフィング終了後、レース海面でも予報通りの南風が吹き始め、予定通りD旗を掲揚し、一斉に全艇出艇しました。選手たちもてきぱきと準備ができていました。OP級上級者は運営艇と支援艇により全艇曳航して海面に集合しましたが、国際420級とレーザー4.7は自走で集合し、少しスタート時刻を遅らせて第1レースを開始しました。当日は昼過ぎに干潮であったためスタートは追い潮、逸る気持ちを抑えることが出来

ず、国際 420 級は 6 艇中 5 艇が UFD、OP 級上級者はゼネラルリコールの後、黒色旗による準備信号でスタートしました。第 1 レースは 200° の 9knot、第 2 レースは風軸変わらず若干風が上がり 10knot で、±10° の振れを感じてコース戦略出来た選手に軍配が上がったように思います。

お昼は熱中症対策も考慮して一旦ハーバーに戻って、昼食、クールダウンを図りました。

午後になり徐々に風速が上がり、満ち潮に変わったため 1.5m 程度の波高になり、強風域とうねりの攻略に技量の差が大きく出始めて、特に OP 級上級者はリタイヤ艇とトップ艇フィニッシュ後 15 分以内のタイムリミットでフィニッシュ出来ない DNF 艇が増えました。そんな中、国際 420 級は比較的接戦状態でレース時間も短くなったことから、予定の 5 レースを行うことが出来ました。レーザー 4.7 と OP 級上級者は 4 レースで初日を終わりました。

【8月4日（日）競技会 2 日目】

前日の風が残っており、予定通りスタート出来る状況でした。この日は早めに D 旗を掲揚し、200° の 8knot で国際 420 級、レーザー 4.7、OP 級上級者の順でスタートしました。この日も追い潮でしたが、OP 級上級者に UFD となる選手はいたものの、前日に比べてよいスタートが切れていたと思います。

当日の第 2 レースから微風になり、210° の 5knot でレースを行い、辛抱強く時折入る 6~7knot のブローを上手に掴んだ選手が好成績を出しました。ここで、国際 420 級は既定の 7 レースを終えハーバーに帰りました。

レーザー 4.7 と OP 級上級者は残り 1 レース。予定時間ギリギリでしたが、180° の 4.5knot が確実に確認できたので、最終レースをスタートしました。レース中 4knot を下回るエリアや時間もあり、フィニッシュへの最終レグを 210° と変更する中、辛抱強くセールのトリムできた選手が上位に入りました。

【総括】

国際 420 級は上田・松岡（葉山町セーリング協会）が頭一つ抜きん出ている印象がありましたが、他の 5 艇もまだまだ今後の練習によるレベルアップに期待が出来ると感じました。

レーザー 4.7 は各選手、得意な風域では好成績を残し、苦手な風域ではその通りの結果となったと思います。今後の練習で、苦手とする風域をいかに攻略するかで大きく成長できるチャンスがあると感じました。

OP 級上級者は重松陽、重松駿（夢の島ヨットクラブ）の圧倒的な強さが発揮されました。ここで他の選手も見本としていただきたいのは、重松駿です。彼は 175cm 近い身長で、細身ではありますが、決して軽い体重です。それでも微風域で 1 位 2 位を争うレースを行います。OP 級はジュニアの艇種で大きい体は不利であることは間違いないですが、まだまだセーリング技術でカバーできる場所はあるのではないかと感じました。

全クラスを通して、昨今は準備信号を U 旗でレースします。リコールしている艇に釣られてスタート直前にリコールする艇が目立ちます。リコールしなければ上位を狙える折角のチャンスなのでからスタートラインをしっかりと見極めてベストスタートを切れるように練習していただきたいと思いました。

（国際 420 級のレース風景）





(レーザー4.7のレース風景)



(OP級上級者のレース風景)





会場で指導するオーストラリアコーチ

アサヒ飲料から提供していただきました

B 海面のレース状況

OP 級初級者の参加は、17 名で受け付けましたが、直前になり 1 名が OP 級上級者への変更の申し出があり、最終的には 16 名となりました。うち 3 艇がチャーター艇でした。

選手は、小 3～中 3 まで年齢差があったものの、セーリング経験は 2 年未満でした。

スケジュールとしては、初日に受け付け、午後から練習会を実施、開会式実施後に競技運営説明会、2 日目は予選レース、3 日目に決勝レースが行われました。

【8月2日（金）練習会】

練習会は出艇申告を提出してもらい、10 艇が参加し 12 時 35 分に出艇させ、ポンドの B 海面で実施しました。運営艇は 1 艇のみで JJYU 役員が運営し、1 マーク、3 マーク及びスタートアウターを設置してのコース練習を行いました。コースは S-1-3-1-F のソーセージコースで 4 レースを行い、13 時 40 分に終了しました。

【8月3日（土）予選】

予選レースは選手をあらかじめ一定のルールで、4 ディビジョンに分け、2 つのディビジョン同士が対戦し、計 6 レースで結果を出すこととしました。体調不良の選手がおり DNC とし、15 名の選手が出艇しました。

風速 4 Knot、風軸 $180^{\circ} \pm 15^{\circ}$ 、トライアングルの S-1-2-3-1-F コースとしました。潮流の影響から 3 マークが流され固定するのに何度も打ち直しをおこない、9 時 55 分に第 1 レースの予告信号を発しました。1 マーク付近の風が乱れて各艇がマーク回航に苦労しておりました。また 3 マークでの潮の影響を受けて流される艇が見受けられました。第 3 レース頃から風速が 6～8 Knot にあがり 3 マーク回航もスムーズ帆走出来るようになりました。その後、風向は安定し、マークを打ち替えることなくスムーズにレースを消化し、第 6 レースが 12 時 11 分 45 秒に終了し、予定の 6 レースを消化し全艇を陸上にあげました。

休憩、昼食後に選手、父母・コーチを集め、午後の予定について①練習 ②講義、③A 海面の見学 の 3 案で選手に希望を聞いたところ、③の A 海面見学が決まりました。観覧艇に乗り A 海面の観戦を行いました。

【8月4日（日）決勝戦】

決勝レースは、予選の結果の上位 8 艇と下位 8 艇に分け、最初に下位 8 艇が 2 レースを行い、次にそのトップ 3 艇と予選の上位 8 艇の計 11 艇で 2 レースを行って最終順位をつけることとしました。

8 時 15 分に指導者・選手を集めて、予選結果の下位グループと上位グループに分け夫々識別リボンを渡しました。体調不良の選手が 2 人出て DNC となり、下位グループは 6 人となりました。

決勝戦は $160^{\circ} \pm 15^{\circ}$ 、5 Knot の風で、予選と同様トライアングルコースでレースを行うこととしました。

第 1 レースは予定通り 9 時 30 分に予選下位グループの 6 艇をスタートさせました。

続けて同じグループで次レースを行い、レース結果を信号艇内で直ちに計算して、上位 3 艇を残し、他 3 艇は陸上に戻しました。

決勝戦は 11 艇で 2 レース行いましたが、さすがに上位グループだけあって、安定した走りをみせ、決勝レースは 11 時 22 分に無事終了しました。

結果は成績表の記載の通りですが、特筆すべきは加原選手（葉山町セーリング協会）が予選・決勝 5 レース中 4 レースで 1 位に入り圧勝したことです。

ただ参加選手を全体的に見れば、スタートやマーク回航等が未熟であり、今後の練習に期待します。





A 海面の観戦をするOP初級者の選手たち

海外招待チームの状況

今年の競技会にはオーストラリア・ニュージーランド・韓国・台湾の4か国からレーザー4.7級2名・OP級上級者11名の選手及びコーチ・保護者6名、総勢19名が参加しました。

レース前日の国際交流会パーティーでは、海外チーム選手と日本人選手が持参したプレゼントの交換などを通して交流を深めていました。またアトラクションのじゃんけん大会では海外チームの選手たちも大いに盛り上がっていました。

レース海面では例年と同様に各国コーチがコーチボートから自国選手へ積極的にアドバイスを出していました。国際交流個人対抗レースでは、レーザー4.7級でニュージーランド選手が総合3位を獲得、OP級上級者では同じくニュージーランド選手が総合5位入賞。

海外チーム戦ではニュージーランドチームが優勝を飾りました。

今年は台湾チームが初参加しましたが、日本側のおもてなし・レース運営等はとても素晴らしいものであったとの感想を頂き、来年は10名位の選手を参加させたいと言っておりました。

台湾チームは沖縄の石垣ジュニアヨットクラブと定期的に交流をしていることから参加を呼び掛けた結果です。

来年の大会について開催場所は若洲を予定しているが、開催時期は東京オリンピックの影響で5月1～3日を検討している旨、海外4チームへ伝えたところ、各国とも時期的に問題なく是非参加したいとの回答を頂きました。

医療救護部 総括

令和初となる国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2019は、昨年同様、連日30℃を越す猛暑の中の競技会となりました。今年も熱中症を心配して、開会式後の川副陽子医師の安全講習会をはじめ、水分補給に関して十分な対策を取るよう参加選手、クラブの指導者に徹底しておりましたが、結果的に4名（うち2名は翌日も体

温計測し水分と塩分補給の指示をしました)の参加選手から熱中症の症状の訴えがありました。1名はクーリング後、熱発し帰宅。1名は点滴後軽快。1名は水分と塩分の補給指示、1名は呼吸苦を訴えましたが、午後のレース後で時間的猶予がなかったこともあり、点滴と同時に救急搬送で東京臨海病院に送りました。幸い、救急外来での再度の点滴にて軽快したため、帰宅し、翌日のレースに参加することが出来ました。

その他、擦傷、打撲の子供が3名、いずれも軽微なもので、消毒、外用薬塗布にて対応しました。

閉会式中に艇庫内会場後ろの台上のカレー鍋を転倒させて、余熱が相当残っていたカレールーが背中にかかった子供と、右足首ほかにかかったコーチの2名は、それぞれ熱傷I度で外用薬塗布、コーチには抗生剤も処方しました。

今回、初めて「健康状態チェックシート」を作成し、事前に外国チームを含め全チーム、コーチに配布してもらいましたが、使用目的や回収方法などが周知徹底されておらず、毎朝の参加選手の状態を把握することが出来ませんでした。使用方法等については今後の課題となりました。最終提出枚数は3日間を通じて39枚でした。また本来であれば昼食後、後片付けされていなければならないカレー鍋により熱傷をおった2名ですが、熱傷I度以下で大事には至りませんでした。特に人が集まる場所での整理整頓、後片付けをしっかりする必要があったと思われま

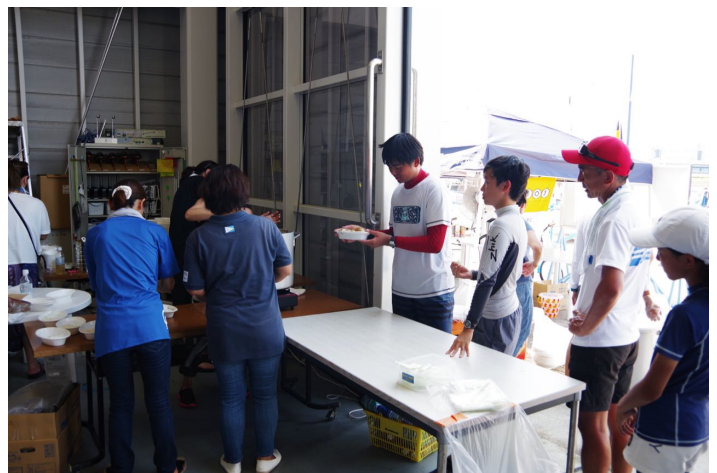
閉会式

競技会3日目は微風の中、A海面でもなんとか2レース終える事が出来ました。閉会式までの時間に艇の片づけや帰り支度をしながら恒例のカレーライスの昼食を楽しみ、閉会式もほぼ予定通り開始することが出来ました。

安井清競技会副会長が競技会会長の代理挨拶、谷口弘次レース委員長による成績発表及び表彰に続き、高間博之プロテスト委員長よりレース講評を頂きました。

一昨年度から新たに設けられました小澤吉太郎先生の教えに沿うシーマンシップを称える特別賞には、本年は石垣島ジュニアセーリングクラブの星野蘭さんが個人として選ばれました。

海外チーム指導者代表としてチームオーストラリアのアンドリュー・マッコレーさんにご挨拶を頂きました。締めは若洲ヨットハーバーマスターでもある浜崎濠次郎競技会副委員長が競技会終了宣言と来年若洲で各クラブの選手、指導者と保護者の方々とまたお会いすることを約束して少しかクシデントがありましたが、何とか閉会式を終える事が出来ました。



恒例のカレーライスの昼食



谷口弘次レース委員長による成績発表



高間博之プロテスト委員長のレース講評



チームオーストラリアのアンドリュー・マッコレーさんご挨拶

主な成績

1.JJYU 特別表彰

①小澤吉太郎特別賞 JJYU 創設者小澤吉太郎先生の教えに沿うシーマンシップに溢れた選手を表彰しました。

★星野 蘭 石垣ジュニアヨットクラブ

②-1 団体表彰 「国内クラブ対抗レース」の上位3クラブにJJYU主催の海外セーリング研修参加資格を授与し、海外渡航費の一部を援助します。

第1位 JJYU 会長杯 葉山町セーリング協会 (クラブ代表 青山義弘氏)

第2位 JJYU 会長盾 夢の島ヨットクラブ (クラブ代表 宮本義明氏)

第3位 JJYU 会長盾 江東区立小中学校セーリング部 (クラブ代表 浜崎濠次郎氏)

②-2 国際交流クラブ対抗レース (最高順位の海外チーム)

第1位 JJYU 会長特別杯 ニュージーランドチーム

2.個人表彰

①OP 級上級者

第1位 特別表彰として競技会の冠たる文部科学大臣杯と賞状、JJYU 会長賞状と金メダル

- 重松 陽 夢の島ヨットクラブ
第2位 重松 駿 夢の島ヨットクラブ
第3位 中島 拓海 横浜ジュニアヨットクラブ
第4位 松原 啓悟 江東区立小中学校セーリング部
第5位 宮本あかり 夢の島ヨットクラブ
第6位 北浦 菜月 江東区立小中学校セーリング部

②OP 級初級者

- 第1位 特別表彰として競技会の冠たる国土交通大臣杯と賞状、JJYU 会長賞状と金メダル
加原 弦季 葉山町セーリング協会
第2位 中野 瑠一 石垣ジュニアヨットクラブ
第3位 太田龍之介 葉山町セーリング協会
第4位 松井 清真 YMFS ジュニアヨットスクール葉山
第5位 牧野 夏希 葉山町セーリング協会
第6位 青山 侑友 葉山町セーリング協会

③レーザー4.7

- 第1位 特別表彰として東京都ヨット連盟会長杯と賞状、JJYU 会長賞状と金メダル
山田真理歩 YMFS ジュニアヨットスクール葉山
第2位 荒木 智也 ユースチーム東京
第3位 小山すみれ 江東区立小中学校セーリング部

④国際 420 級

- 第1位 特別表彰として江東区長杯と賞状、JJYU 会長賞状と金メダル
上田 端・松岡 尚吾 葉山町セーリング協会
第2位 永嶋 杏樹・村上 紗也・林 佩臻 日本橋高等学校
第3位 肥後 滉介・浅野 蒼 葉山町セーリング協会

3.国際交流個人表彰

①海外選手が参加する種目において国内外を問わず1位から3位まで JJYU 会長賞状とメダル授与

(OP 級上級者)

- 第1位 重松 陽 夢の島ヨットクラブ
第2位 重松 駿 夢の島ヨットクラブ
第3位 中島 拓海 横浜ジュニアヨットクラブ

(レーザー4.7)

- 第1位 山田真理歩 YMFS ジュニアヨットスクール葉山
第2位 荒木 智也 ユースチーム東京
第3位 Grace Still ニュージーランドチーム

②海外選手の中での最高順位選手に JJYU 会長特別賞杯と賞状授与

- OP 級上級者 Tom Rebbeck ニュージーランドチーム
レーザー4.7 Grace Still ニュージーランドチーム



小澤吉太郎特別賞の星野蘭さん（石垣ジュニアヨットクラブ）



「国内クラブ対抗レース」優勝の葉山町セーリング協会クラブ代表青山義弘氏（中央）



OP 級上級者第 1 位（文部科学大臣杯）重松陽くん（夢の島ヨットクラブ）と入賞者の皆さん



OP 級初級者第 1 位（国土交通大臣杯）加原弦季くん（葉山町セーリング協会）と入賞者の皆さん



レーザー4.7 第1位（東京都ヨット連盟会長杯）山田真理歩くん（YMFS ジュニアヨットスクール葉山）と入賞者の皆さん



国際 420 級第1位（江東区長杯）上田端くん、松岡尚吾くん（葉山町セーリング協会）と入賞者の皆さん



国際交流クラブ対抗レース第1位（JJYU 会長特別杯）ニュージーランドチーム（中央）



国際交流個人表彰（OP級上級者）第1位 重松陽（夢の島ヨットクラブ）と入賞者の皆さん



国際交流個人表彰（レーザー4.7）第1位 山田真理歩くん（YMFS ジュニアヨットスクール葉山）と入賞者の皆さん



JJYU 会長特別賞杯 OP 級上級者 Tom Rebbeck くん（ニュージーランドチーム）総合は5位でした。



JJYU 会長特別賞杯（レーザー4.7） Grace Still さん（ニュージーランドチーム）

（国際交流会での日本の参加チーム）













